

自転車と安全



保護者が運転する自転車に2人までの幼児を同乗させることは法律上許容されますが、子どもを乗せたまま自転車が転倒したり、幼児用座席から子どもが転落したりしてケガをする事故が多く発生しています。その他、不適切な2人乗りでは自転車の後輪にお子さんの足が巻き込まれて深い傷を負う危険もあります（スポーク外傷）。子どもがひとりで自転車に乗れるようになったら、自転車は交通事故の被害者にも加害者にもなり得ることを伝え、親子で定期的に自転車の安全点検や交通ルールの確認を行うようにしましょう。

応急処置のポイント

まず

全身を観察し、
けがの部位と程度を調べましょう。

擦り傷

すぐに流水で流し清潔にしましょう

深いけが

血が止まらないような深いけがの場合は、布やガーゼで傷を覆い医療機関を受診しましょう

頭や顔を
けが

その後の様子を見守り、次の状がある場合にはただちに医療機関を受診しましょう

✔ 頭痛が続く ✔ 嘔吐する ✔ 歩き方が不安定 ✔ 眠りすぎる ✔ 反応がおかしいなど



家庭での事故(傷害)予防のポイント

保護者が子どもを同乗させる場合(乳幼児期)

- 子どもには必ずヘルメットをかぶせましょう
- 幼児用座席は適正身長・体重および対象年齢を守り、ハーネスをきちんと装着しましょう
- 子どもを自転車に乗せたまま、背を向けたりそばを離れたりしないようにしましょう
- 前後に2人乗せている場合は、前の座席の子どもを先に降ろしましょう
- 子どもを抱っこやおんぶして自転車に乗ってはいけません
- 6歳以上の子どもの同乗は後輪に足を巻き込まれることがあり危険です（スポーク外傷）
- 特に荷台に座らせるのはやめましょう



子ども自身が運転する場合(6歳以上)

- 必ずヘルメットをかぶりましょう
- 自転車は自動車と同じです。歩道では必ず歩行者を優先しましょう
- 信号や道路標識などの交通ルールを必ず守りましょう
- スマートフォンを使いながら、音楽を聴きながらなどの「ながら運転」は大変危険です
- 自転車のタイヤ、ブレーキ、ライトなどが適切に機能するか、定期的に確認しましょう



実際にあった事例

自転車運転中の保護者に背負われた状態から転倒時に放出され重症頭部外傷を負った乳児 Injury Alert(傷害速報)No.71

5か月の乳児。母は自転車を運転しており、児は母におんぶ紐で背負われた状態であった。自転車が乗用車と接触し、自転車が転倒した際に児がおんぶ紐から飛び出し頭を下にして落下した。医療機関で頭蓋内出血を認めて、集中治療室に入室した。

自転車後部荷台同乗中のスポークによる右足部裂創(スポーク外傷) Injury Aler(傷害速報)No.100

5歳の男の子。父の運転する自転車の後部の荷台にまたがっていた。男の子は裸足に草履を履いた状態であった。走行中、父は後輪に何かか挟まったような感覚がして自転車の速度が低下したことに気づいた。自転車を止めて見ると、児の右足がスポーク部分に引っかかって出血していた。

主治医からのひとこと